

子どもの貧困と 学校ソーシャルワーク

- 久留米大学・教授
- 福岡県スクールソーシャルワーカー協会・会長
- 福岡県・福岡市・久留米市・広島市・熊本県菊陽町
教育委員会SSWスーパーバイザー

門田 光司

アメリカ(1900年代) 貧困と教育の課題

- 子どもの貧困問題
- 児童労働問題
- 教育機会の問題

- 子どもの貧困問題
- 児童労働問題
- 教育機会の問題

改善を求める
取り組み

州政府・行政機関

セツルメント
ハウスのワー
カーたちによ
る
「アドボカ
シー」と
「ソーシャル
アクション」

慈善活動
(Charity)

怠学要因：貧困、疾病、崩壊家庭といった
社会病

< 訪問教師の活動(アドボカシー) >

- ① 学校に子どもの家庭状況を理解してもらう
- ② 教師に子どもの情報を提供する
- ③ 親に学校の要望や子どものニーズを理解してもらう



アウトリーチ・アプローチ

ニューヨーク市の訪問教師活動調査(1913-1914)

低学力	不品行	不規則な登校	疾患	悪い家庭条件	遅刻
%	%	%	%	%	%
29.3	25.6	18.6	13.0	9.6	3.9

1921年の 訪問教師調査

・1918-1920年度の訪問教師の活動報告では、訪問先では**家庭訪問が全体の半数以上を占め**、その目的は子どもの置かれた生活条件の確認や子どもの教育や福祉を阻害する諸影響を除去したり改変したりすることであった。

・学校訪問では校長や教師と子どもの問題についての協議。他の訪問では、病院、少年裁判所、救済機関等、さまざまな方面への連絡であった。

社会福祉(ソーシャルワーク)実践の起源における 「**家庭訪問**」(Home Visits)・「**アウトリーチ**」(outreach)

「家庭訪問及びアウトリーチ」は、社会福祉の実践(ソーシャルワーク)が形成される起源である。

「**家庭訪問**」の目的は、福祉サービスや情報を提供するために、当事者(家庭から出れない状況にある人:障害や高齢等)の家に出向くこと。時には、当事者の生活状況を調べるために、当事者が期待しない訪問をする場合もある(虐待状況等)。

「**アウトリーチ**」は、家庭に出向き、当事者にサービスの情報やサービスそのものを提供する活動

1918年までに全州で義務教育法が制定



Attendance officerを配置
※怠学による欠席を強制的に対処
(家庭訪問及び学校への保護者呼び出し)

1940年代 「スクールソーシャルワーカー」の誕生

ソーシャルワーカー

訪問教師

1943年:「訪問教師」から
「スクールソーシャルワーカー」へ

全米スクールソーシャルワーカー 調査結果より(2008年)

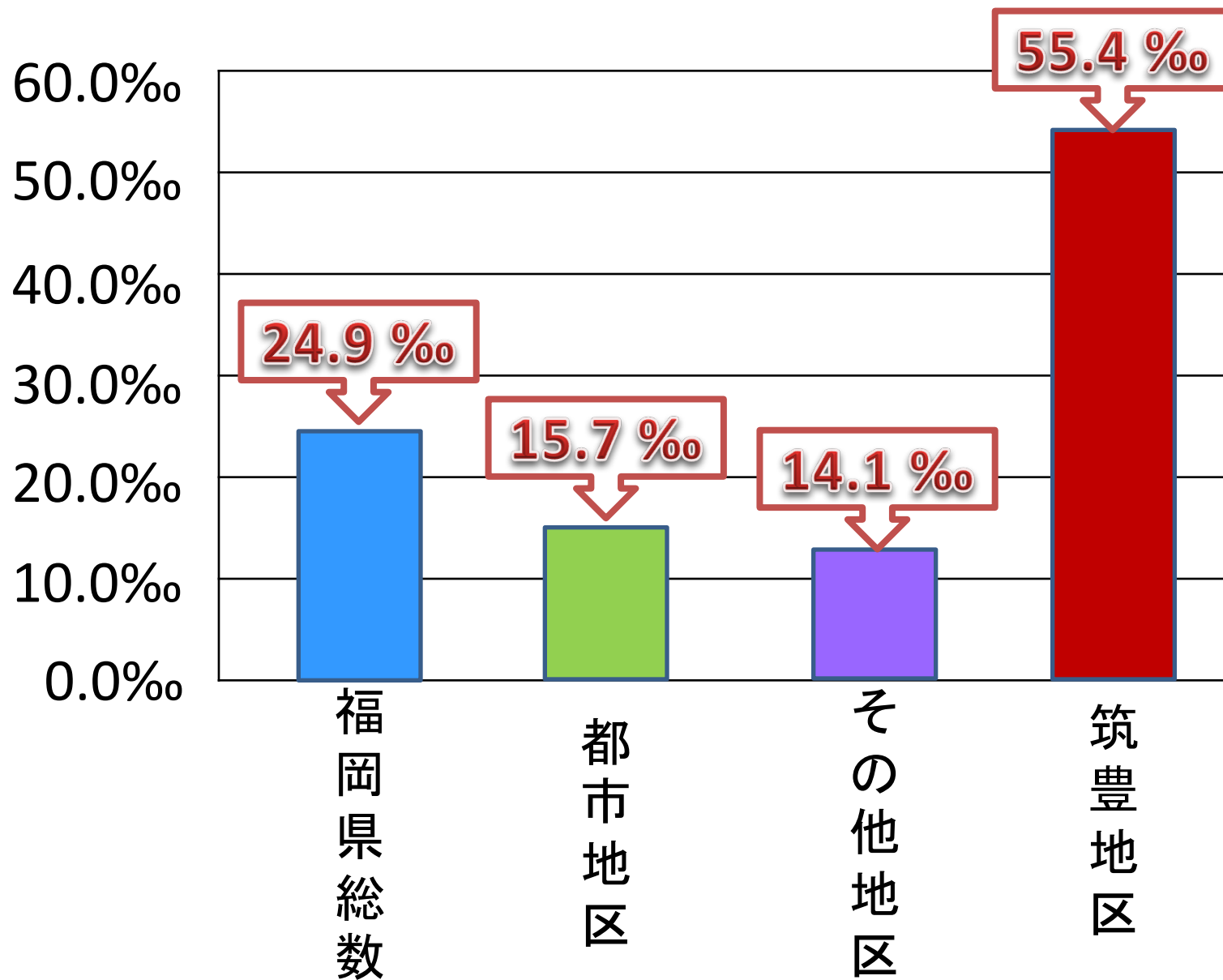
- 基本属性: **女性**(89%)、白人(79%)、
- 州のSSW資格保有者(70%)、**SW修士号**(87%)
- 配置校: 小学校(44%)、中学校(18%)、高校(23%)
- 担当校数: 1校(40%)、2校(19%)、3校(11%)、
4校以上(32%)(※1~3校で70%)
- 生徒の問題: ①行動面の課題と情緒面の課題(50~
60%)、②出席上の課題と学業課題(20~30%)
- 主な支援: ①**個別カウンセリング(60%)**、②グループ
カウンセリング(31%)、③家族支援(21%)、③教室での
グループ活動及び教師への助言(10%以下)

福岡県の状況：子ども2割が「貧困」

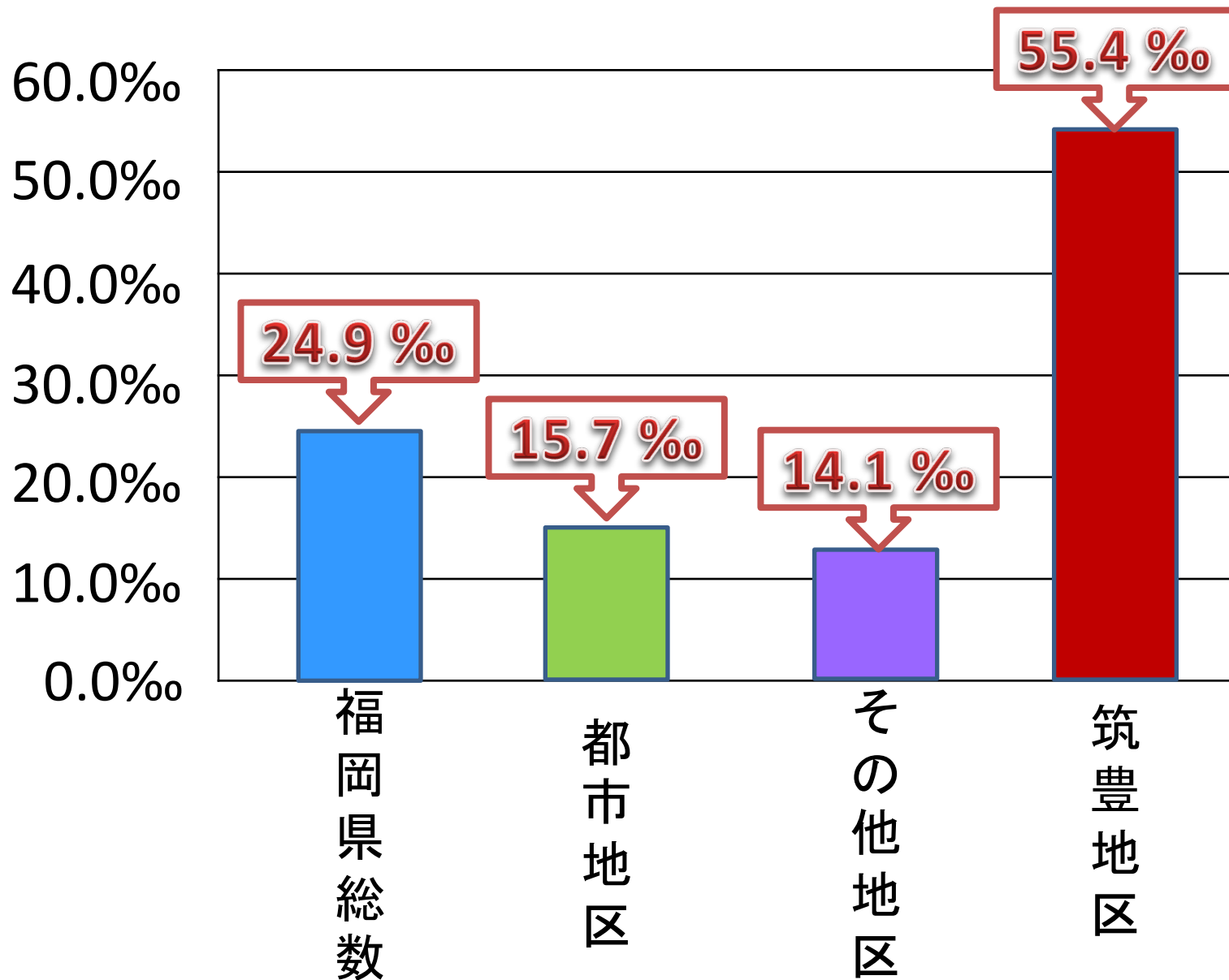
(西日本新聞,2015年11月4日)

県	子どもの貧困率(人数)
福岡	23.0%(19万人)
佐賀	13.0%(1万9000人)
長崎	18.5%(4万2000人)
熊本	15.3%(4万6000人)
大分	16.6%(3万1000人)
宮崎	16.4%(3万1000人)
鹿児島	21.3%(6万人)
全国	13.9%

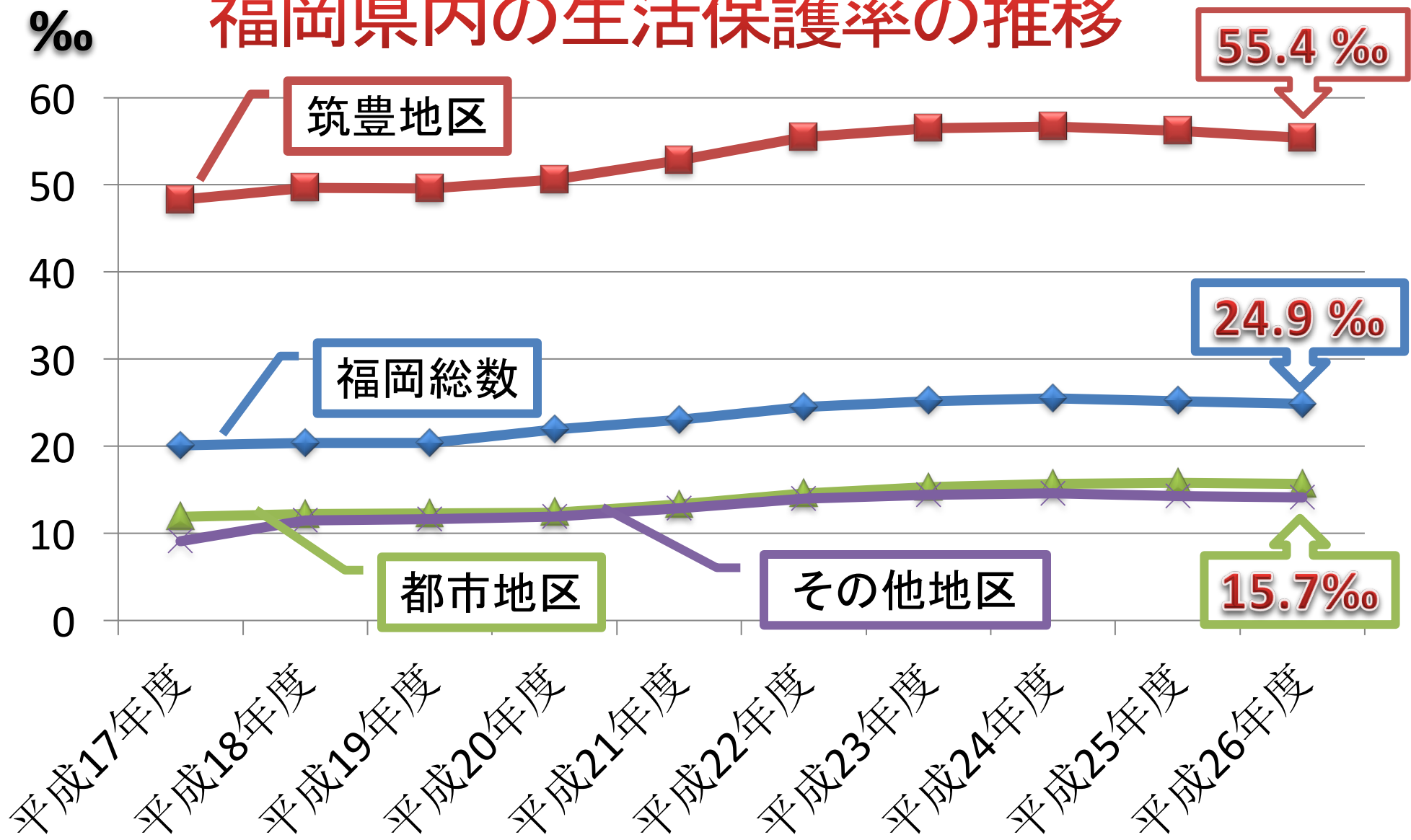
福岡県内の生活保護率(平成27年度)



福岡県内の生活保護率(平成27年度)



福岡県内の生活保護率の推移



福岡県教職員組合・1959年調査

	長期欠席状況		
	20日～50日	50日以上	不就学
炭鉱子弟	227名(5.3%)	101名(2.4%)	43名(1.0%)
一般子弟	95名(1.5%)	35名(0.5%)	15名(0.2%)

	欠席の原因			
	家事手伝い	学用品の不足から	諸費納入の困難から	学校嫌い
炭鉱子弟	194名	106名	75名	120名

学用品・通学用品の所持状況 (もたない子どもの比率)

	筆入れ	ノート	雨具	きがえ下着	机
炭鉱子弟	9.8%	5.8%	18.4%	5.4%	28.1%
一般子弟	2.4%	1.4%	4.2%	0.6%	10.2%

学校行事・欠食状況

	修学旅行 不参加	遠足不 参加	弁当持 参無し	食事を満足に していない
炭鉱子弟	10.9%	6.3%	6.8%	5.4%
一般子弟	3.0%	1.6%	0.8%	0.6%

福岡県「**補導教諭**」の誕生

- ・非行事件が発生する度に警察は学校に呼び出しをかける。担任は授業を放棄し警察に出かける。生徒の外泊、家出、集団窃盗の場合、夜遅くまでとびまわらないといけない。その間、受持児童は自習となる。このような状況で、法制上の地位もない「**補導教諭**」が生まれた。
- ・その活動は、家庭訪問、子どもたちの溜まり場への訪問、生活保護の事務支援、就学援助の教育委員会との交渉。家庭訪問で親が不在の場合には、親の居場所に訪問。非行防止会議や家庭裁判所、児童相談所、保護司等の協議。

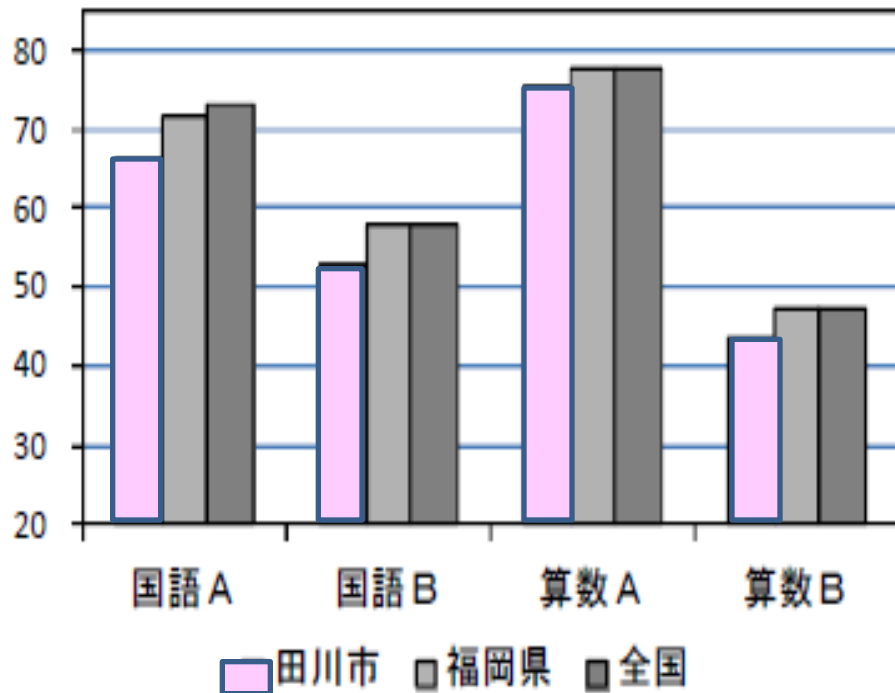
平成29年3月・福岡県筑豊地区生活保護率

地域別		被保護世帯	保護率(‰)
全国		1,641,532	16.9
福岡県		96,356	25.4
福岡市		33,596	28.7
北九州市		18,574	24.7
一部筑豊地区	田川市	5,776	110.6
	福智町	1,582	102.5
	川崎町	1,889	171.9
	大任町	407	112.0
	糸田町	713	115.5

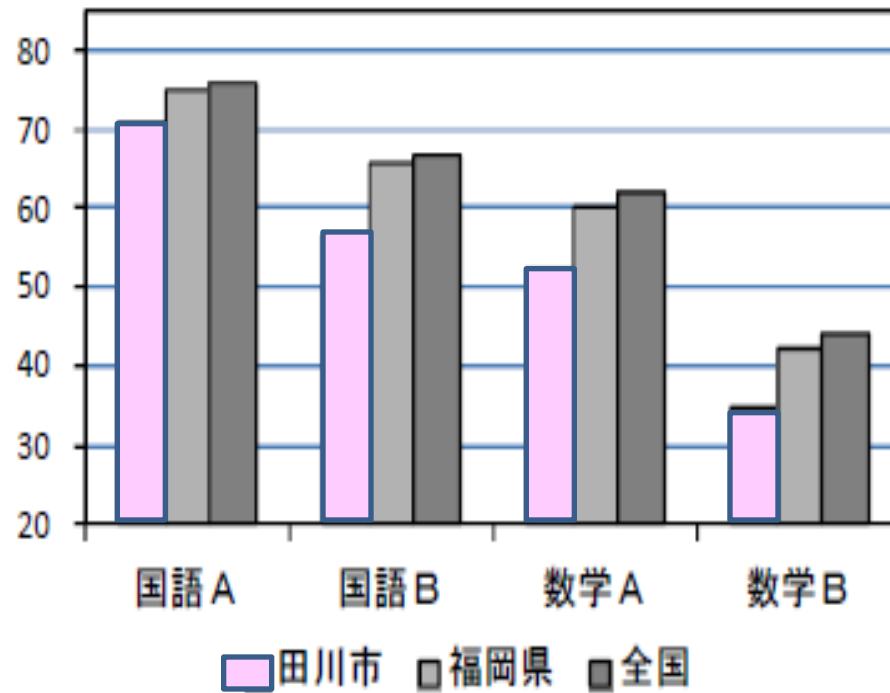
	保護率	小学校	中学校	SSW
田川市	110.6	9校	8校	3名

平成28年度全国学力試験結果

小学校



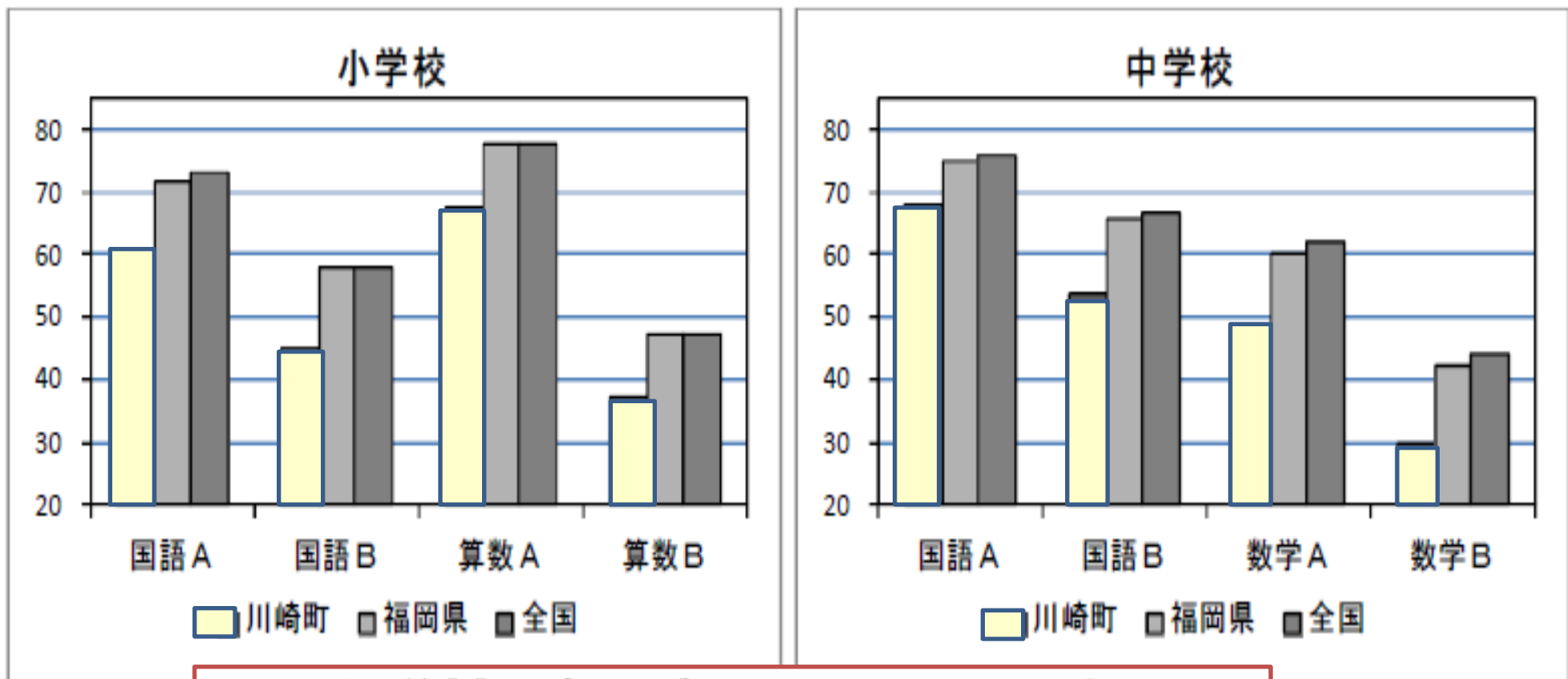
中学校



中学で全国平均より15点低下

	保護率	小学校	中学校	SSW
川崎町	171.9	4校	3校	2名

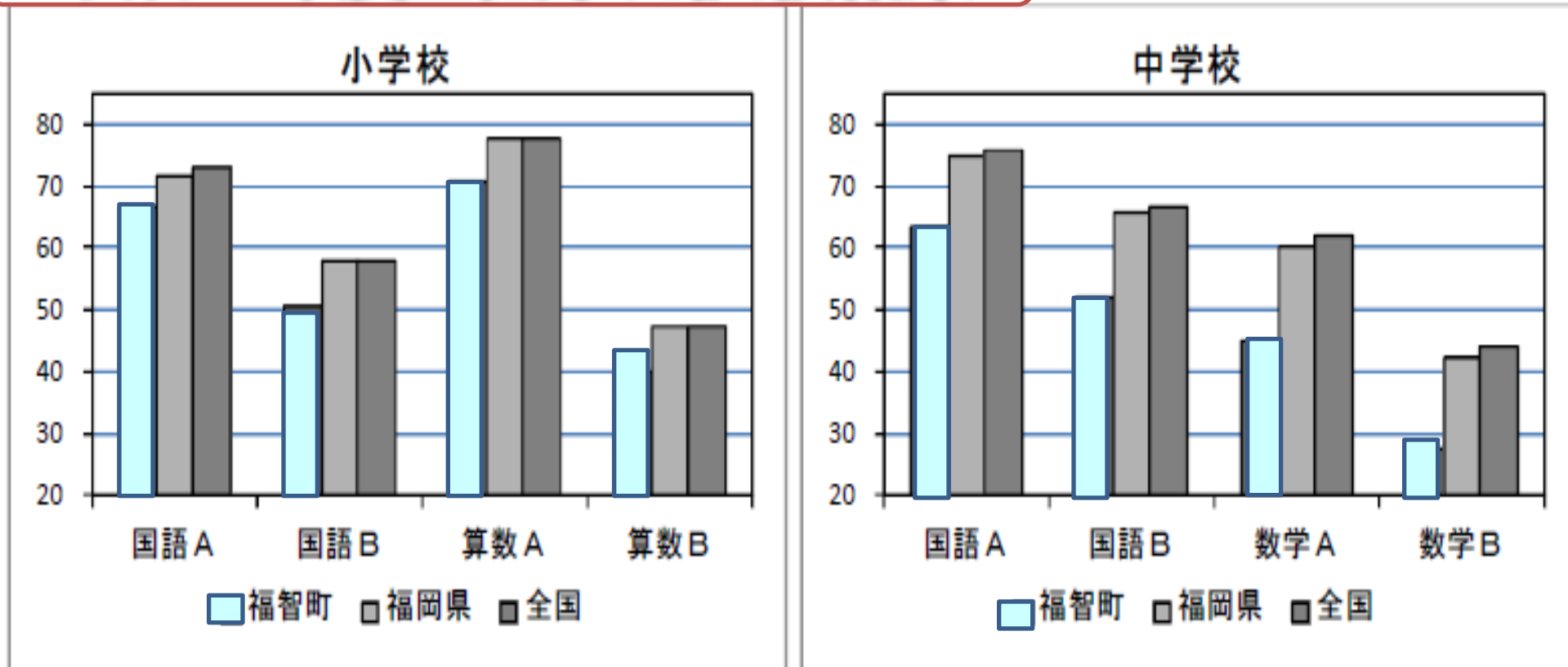
平成28年度全国学力試験結果



小・中学校ともに全国平均より15点低下

	保護率	小学校	中学校	SSW
福智町	102.5	5校	3校	2名

平成28年度全国学力試験結果



小・中学校ともに全国平均より15点低下(特に中学校で顕著)

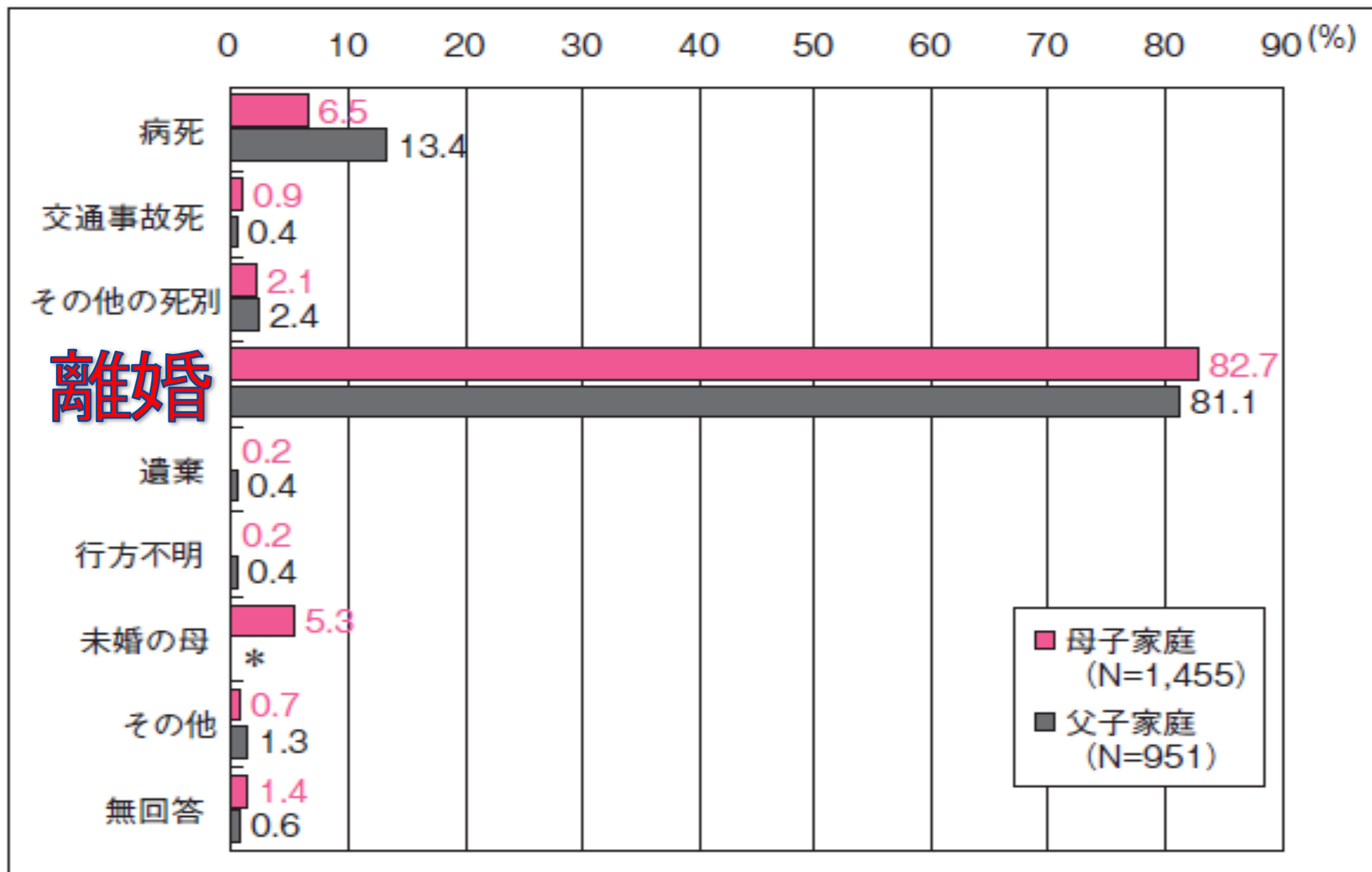
概要版

福岡県母子世帯等実態調査報告書

平成 23 年度



図表-9 母子家庭、父子家庭になった理由



図表-14 養育費の取り決めをしていない理由

